

聖ヴィアトール修道会：京・江戸・博多、そして巴里：30

南野，森
九州大学大学院法学研究院：教授

<https://hdl.handle.net/2324/7397119>

出版情報：福音宣教. 78 (8), pp.16-17, 2024-08-01. Oriens Institute for Religious
バージョン：
権利関係：





左：2024年3月31日、復活の主日のミサ後の記念撮影。翌日から、北白川教会は京都教区に移管された。
右：2024年6月30日、ウィリアム師による

最後のミサ後に、侍者の子どもたちから左の写真を額に納めたものがプレゼントされた。

6月30日、北白川教会で、翌日離日されるウィリアム師による最後のミサが捧げられた。「司祭・修道士は一旦ゼロになりますが、第三会員はいます。私もまた行ったり来たりします。」という師の言葉に、希望を与えられた。

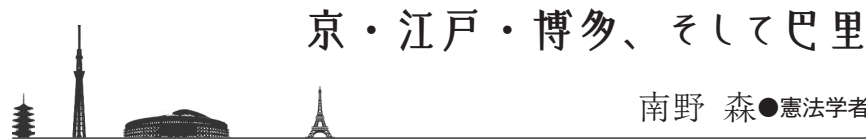


みなみの・しげる●九州大学法学部教授。京都市生まれ。洛星中・高等学校、東京大学卒業後、同大学大学院、パリ第10大学大学院を経て、2002年九州大学助教授、14年教授。AKB48の山内奈月との共著で好評を博した『憲法主義』（PHP文庫）ほか著書多数。

て八〇九月、戦前に来日経験もあつたピエール・カリエ神父と村田神父ら5人の会員が京都使徒座知牧区の古屋義之教区長やメリノール会員らとの協働を経て京都に到着、一二月には、京都市左京区の現在のカトリック北白川教会の隣接地に日本最初のヴィアートル会修道院が設立され、初ミサが捧げられた。

満洲の暁東中学校を引き継ぐような男子校を京都に創立するため、校地の確保や法務関係の手続は言うまでもなく、教員や生徒の募集、教育やクラブ活動用の資料の調達に至るまで、戦後まもない時期のヴィアートル会士の苦労は想像するに余りある。そして彼らの蒔いた種は大きく育ち、ヴィアートル学園は創立七〇周年を迎えた。学校の東側にはステンドグラスの美しい聖堂とともにヴィアートル会2つ目の修道院である「白梅町修道院」があり、そこで私の信仰生活も始まったのであるが（本連載第11回「クリスマス」参照）、しかし、それから四十年が経ち、当時十余名おられた会士はみな帰国・帰天されてしまった。

そして今年の三月末、ついにヴィアートル会は日本から撤退し、日本の宗教法人としては解散することになった。北白川教会は京都教区に移管され、日本最後のヴィアートル会士ウィリアム・バティオノ神父は、京都教区での任命も解かれ、カナダの管区本部に戻られることになった。



京・江戸・博多、そして巴里

南野 森●憲法学者

30 聖ヴィアートル修道会

母の不思議なひとで私が進学を決めた（本連載第1回「アラル神父と売店のおじさん」参照）、京都市北区のヴィアートル学園洛星中学校は、一九五二年、カトリックの男子修道会「聖ヴィアートル修道会（Clercs de Saint-Viateur, c. s. v.）」によって設立された。

同会は、一八三一年、フランス・リヨンにおいて教区司祭ルイ・ケルブ神父（二七九三―一八五九）が創立、三八年に教皇グレゴリオ一六世に認可され、以後、フランス、カナダ、そしてアメリカへと活動を広げていった。もともと地方の小教区において教理教育に携わる聖職者と信徒のグループとして発足した――それで四世紀のリヨンで司教座聖堂のカテキスタとして活躍した聖ヴィアートルを守護聖人とした――が、やがて、初等教育から高等教育、また聾啞者教育など幅広い教育をミッションとする教育修道会に発展していった。

ヴィアートル会が日本での活動を開始するのは戦後であるが、アジアでは、一九三一年にカナダから満洲に派遣された会員たちが、三三年に四平街（現在の吉林省四平）に英語学校を創設しており、それが数年後に「暁東中学校」となっていた。この学校では、のちに私が洛星に入学した当時の校長となる村田源次神父など、終戦までに24人の会員が働き、卒業生は約三千人、そのうち約一割がカトリックの洗礼を受けたそうである。

日本の敗戦とソ連軍の撤退後、一九四六年に四平街は国共内戦の激戦地となり、四八年三月、ついに共産党軍の支配下で暁東中学は閉校を余儀なくされる。そし